

「京」を中核とするHPCIシステムの産業利用促進への取り組み

Efforts to promote industrial use in HPCI system with a core of K computer

一般財団法人高度情報科学技術研究機構
塩原 紀行、井上 孝洋

HPCIの利用研究課題を募集し、厳正な審査を経て、25件の「京」の産業利用課題が選定された。登録機関としての産業利用支援は、1) 産業利用促進、2) 産業利用相談、3) 産業利用支援を3本柱としている。産業利用促進には、①産業利用よろず相談、②産業応用ソフトウェアの情報提供、③計算科学の活用・課題解決のコンサルティング、④産官学連携のコーディネートなどが含まれる。産業利用相談には利用者の一元的窓口であるヘルプデスクと産業利用支援員が連携して対応する。産業利用支援はプログラム高度化専門の支援員が高並列化や高速化のための支援を行う。

産業利用の拠点として東京と神戸にアクセスポイントが設置されており、東京は当財団の東京事務所により運営される。そこには作業用個室が設置されており、技術相談窓口とコンシェルジュ窓口を利用することができる。

資源利用率が低い課題には問題点や支援すべきことがないか、状況を把握して、積極的に支援の手を差し伸べる。また成果報告会やセミナーの開催、展示会への出展など広報・宣伝活動を活発に行い、産業界での知名度向上や普及に努める。さらに技術講習会も適宜開催し、早期に利用成果があげられるようにする。

1. はじめに

スーパーコンピュータ「京」の利用研究課題を5月9日から6月15日まで募集し、厳正な審査を経て、9月3日に選定結果をプレスリリースやホームページで公表した。その直後から、新聞社を中心にマスコミからの問い合わせが殺到し、その多くが、産業利用課題の選定に関する内容であった。課題実施機関名と課題責任者名は公表したが、予め定めていた情報管理規定に基づき課題名や課題の内容は公表しなかったため、そこに質問が集中した。回答が得られないと分かると、新聞各社は、実施機関名と課題責任者名だけを手掛かりに選定された各企業に直接取材した。取材や公表に同意した企業については、課題の内容に関する記事が掲載されることとなっ

た。発表日から1か月間で、「京」に関する記事や特集が、神戸新聞だけでも13本出ており、産業利用に関わる記事も多い。産業利用への関心の高さは成果への期待の現れであり、それに応えるべく、課題選定された企業が「京」を活用し、所期の成果があげられるよう、利用者に適切な支援を行うことが当財団の使命である。

本稿の前半は産業利用支援の体制や利用状況を中心に塩原が、後半は産業利用拠点であるアクセスポイント東京について井上が執筆した。

2. 産業利用研究課題の選定

HPCI (ハイ・パフォーマンス・コンピューティング・インフラ) は、「京」および9大

学の情報基盤センターが資源の一部を供出し、シングルサインオンなど一体的に利用できる仕組みと体制を構築したシステム基盤である。当財団は、特定先端大型研究施設の共用の促進に関する法律に基づき、登録施設利用促進機関（以下、登録機関）として「京」の利用促進業務を担うとともに、HPCIについては、HPCI運営事務局として課題募集・選定、一元的情報提供などの利用促進業務を推進している。

HPCIの産業利用課題の募集の結果、「京」に関しては、提供可能な資源量（産業利用枠として「京」全体の5%）の4.2倍もの資源要求量の応募が有り、産業利用ワーキンググループ、課題審査委員会、選定委員会という3階層の厳正なプロセスを経て、25件の「京」の課題が選定された。「京」以外の資源を利用する課題は、2件にとどまった。以降は、アクセスポイントに関する4章を除き、主として「京」に関して述べる。

「京」で選定された産業利用課題の内訳は、トライアル・ユース（3ヶ月の試行的利用）3件、実証利用（成果公開・無償利用）17件、個別利用（成果非公開・有償利用）5件となった。選定率は、「京」一般利用の21%（29/138）、「京」若手人材育成の14%（8/58）と比較し、「京」の産業利用は、80.6%（25/31）と格段に高い結果となった。これは、産業利用育成のため、ワーキンググループや委員の先生方が、一定水準を超えた応募課題については、少なくとも「京」を利用する機会を与えて、いずれ産業利用のフロントランナーとして大規模利用に進んでもらおうとの考えに沿って選定した結果である。民間企業は、選定件数では全体の37%を占めるのに対し、配分資源量比率においては16%にしかない。大学（全体の35%）や独法・研究機関（同49%）に比べて、計算規模が小さな課題が大半を占めるためである。今後は企業においても大規模計算の課題が増加していくよ

う、適切な利用支援を行うことが登録機関に求められている。

いくつかの企業は、「京」の利用研究課題に選定されたことを名誉と捉えていただいたのか、プレスリリースを実施し、課題が選定されたことと「京」を利用して進める課題の概要を公表している。その内の1社が兵庫県神戸市に本拠を置く住友ゴム工業株式会社である。ダンロップブランドで知られる国内有数のタイヤメーカーであり、「これまでのスーパーコンピュータでは再現が難しかった材料中の分子・ナノレベルの構造から、タイヤ用ゴムの低燃費性能や摩耗性能などをシミュレーションする技術を確立し、高性能・高品質タイヤへの新材料開発を加速させてまいります。」と発表している。タイヤに求められる性能がますます多様化・高度化していく中、「京」の500万ノード時間の資源を活用することで、高性能タイヤを開発するための画期的な新材料創出につながることを期待される。

3. 産業利用支援体制

登録機関としての産業利用支援体制は、図1に示すように産業利用促進、産業利用相談、産業利用支援を3本柱としている。産業利用全般を推進するため、産業利用推進コーディネータを配置している。

(1) 産業利用促進

① 産業利用よろず相談

産業利用に関するどんな相談にも対応する方針であり、初歩的な相談、漠然とした相談も歓迎する。様々な機会に産業利用の説明を行うと、最初から「京」の利用課題に申し込むべきか、大学基盤センターのPCクラスタ等で並列化の経験を積んでから「京」にステップアップした方が良いのかなど、利用パスを示してほしいとの要望が多い。課題応募に至るまでの事前相談は、とりわけ重要と認識している。

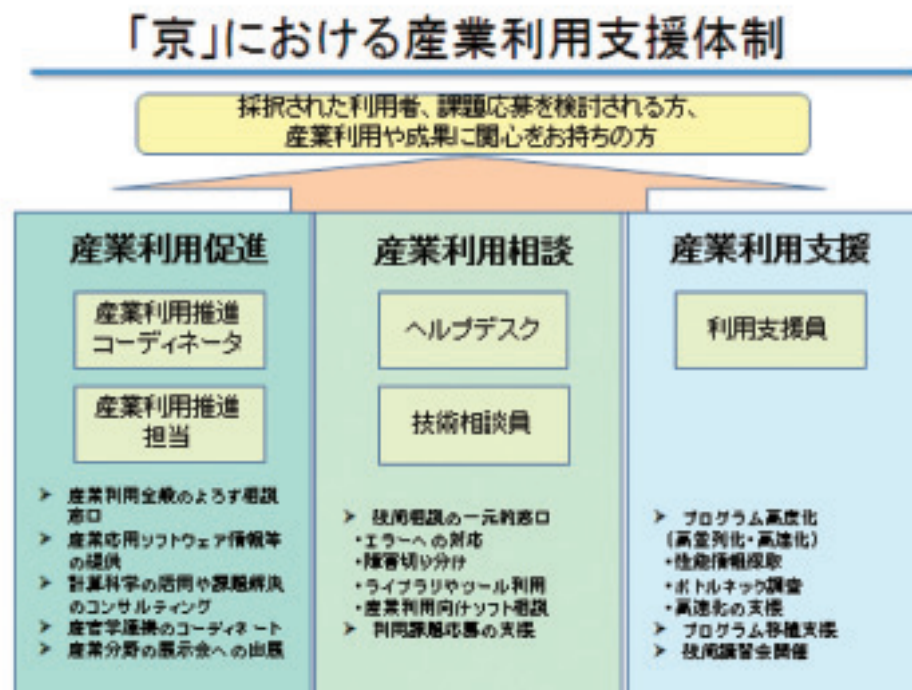


図1 「京」の産業利用支援体制

②産業応用ソフトウェアの情報提供

産業利用の場合、自作ソフトウェアではなく、評価が定まった既存のソフトを適用したい利用者が大半である。「京」の場合、利用者がソフトを入手し、インストールすることとなっている。そのため、「京」用のソフトウェアの入手先や動作実績情報を利用者に提供することが重要である。今後、「京」で動作可能なソフトウェア情報を収集し、さらに「京」と基本的に同一アーキテクチャであるFX-10での動作実績も含めて、利用者が求める情報をHPCIポータルに掲載し、適宜更新する。

著名ISVソフトに関する要望や問い合わせも多い。「京」のように超大規模で利用する場合、ライセンス料が極めて高額になることと需要が見込めないとしてベンダーが移植や並列化に消極的な点が課題となっている。そのため、ユーザニーズが強いISVソフトについては、登録機関からベンダーに申し入れや対応を依頼することも検討する。一方、価格や契約条件交渉等の負担が小さ

いオープン・ソース・ソフトウェア（OSS）については、評価が高く明確なニーズがあるソフトウェアを選定し、登録機関として移植や並列化チューニングを行う方針である。その一環として、OSSのうち化学材料や創薬研究で良く利用されているGROMACSやGAMESSなどニーズが高いソフトウェア21本を選定し、数か月をかけてコンパイル・リンクを完了させた。表1にそれらのソフトウェアを示す。表中のいくつかのソフトウェアは既に活発に利用されている。

「京」をターゲットとして開発されてきたグランドチャレンジプログラム（ナノ・ライフ）や戦略5分野で開発されているソフトウェアの多くは、既に高並列化チューニングが完了し、大規模並列での実行が可能となっている。これらのソフトウェアを敬遠している企業も多いが、内容的に優れたソフトウェアも多いので、それらの価値が評価できるよう、また有用であると判断したソフトウェアが十分に活用できるよう、必要な支援を行う。

項番	ソフトウェア名	ソフトウェア概要
1	SuperLU	非対称疎行列ソルバー、複素値にも対応
2	UMFPACK	マルチ・フロントル法を用いた非対称疎行列ソルバー
3	SuperLU MT	非対称疎行列ソルバー(共有メモリ)、複素値にも対応
4	SuperLU DIST	非対称疎行列ソルバー(分散メモリ)、複素値にも対応
5	ABINIT	第一原理計算コード
6	METIS	行列やグラフを分割したり、オーダリングしたりするためのライブラリ
7	HDF5	ファイル入出力インターフェイスライブラリ・ソフトウェア
8	NetCDF	ファイル入出力インターフェイスライブラリ・ソフトウェア
9	GROMACS	分子動力学シミュレーション
10	LAMMPS	並列計算機のために設計された古典的な分子動力学シミュレータ
11	GAMESS	原子、分子の量子化学計算をハートリーフォック近似をベースに行なうソフトウェア
12	Frontflow/Red	流体解析ソフトウェア
13	FrontISTR	非線形構造解析ソフトウェア
14	CMAKE	メイクツール
15	gsl	数学ライブラリ
16	ImageMagick	画像処理ツール
17	libjpeg	JPEGの画像操作作用ライブラリ
18	libpng	PNGの画像操作作用ライブラリ
19	Zlib	データの圧縮および伸張を行う
20	Parallel-NetCDF	NetCDFの機能にMPI-IO によるParallel IOを実現

表1 「京」上でコンパイル・リンクしたOSSの例

③計算科学の活用・課題解決のコンサルティング

より広く、深いレベルで利用者の課題を解決する方策を探るため、十分な内容ヒアリングと調査・分析を行い、それに基づいた方針を共同で検討するなど、コンサルティング的な利用支援も行う。

④産官学連携のコーディネート

今回選定された産業利用課題のいくつかは、戦略5分野に参画されている大学・研究機関の先生が実施体制に参画している。数万ノードを超える規模まで並列化されたソフトウェアを開発者の先生から直接助言を受けて利用できるなど、企業側にメリットが大きい。利用課題への応募を検討している時点から、課題の内容を聞かせていただき、必要があれば企業の課題担当者と大学・研究機関の先生との橋渡しを行う。

(2) 産業利用相談

利用者のための一元的窓口としてヘルプデスクが設置されており、戦略5分野を含む全

利用者からの多種多様かつ大量の質問や相談に日々対応している。その内容は、問題の切り分け、コンパイルや実行時エラーへの対応助言、ライブラリやツールの利用方法等、多岐にわたっている。産業利用の支援員は、ヘルプデスクと密接に連携しながら、産業利用課題の応募の相談、産業利用ソフトウェアや利用中に発生した問題への相談などに幅広く対応する。

(3) 産業利用支援

プログラム高度化（高並列化、高速化）のために、性能情報を採取し、ボトルネックを特定し、プログラムチューニングの支援を行う。登録機関には各専門分野に対する高度化専門の支援員が組織されており、高度な技術を要する支援要請にも十分に対応できる体制が確立している。現在は「京」の試験運用期間中から先行利用してきた戦略5分野の利用課題に対する支援が主であるが、徐々に産業利用課題を含む一般課題の高度化支援にシフトしていく。

以上述べた産業利用支援は、登録機関業務を担う当財団の神戸センターにおいて推進しているが、産業利用支援を目的に東京と神戸にアクセスポイントと呼ばれる利用拠点が設置されており、そこでもよろず相談や初級者向け相談を中心に利用支援が受けられる。

4. 産業利用のための拠点(アクセスポイント)

アクセスポイントは、HPCIの利用促進業務の一つとして、特に産業利用促進のための拠点となるべく設置運営されたものである。関西地区では財団法人計算科学振興財団（以下、FOCUS）が「アクセスポイント神戸」として、関東地区では当財団の東京事務所が「アクセスポイント東京」として、HPCIの共用開始日と同日の平成24年9月28日から正式運用を開始した。

アクセスポイントの業務としては①作業用個室の設置運営と、②技術相談窓口およびコンシェルジュ窓口、の2つになる。以下それぞれについて説明する。

(1) セキュリティに配慮した作業用個室の設置 東京都品川区にある当財団の東京事務所の

一部を改装してアクセスポイント東京の作業用個室（以下、「APブース」と呼ぶ）を設置した。図2はそのレイアウトであり、図3はブース内の様子である。主な仕様は以下の通りである。

- ・広さ約12㎡×2室。
- ・ブース壁は防音材を挿入したパーティションを利用。
- ・各APブース入り口はICカード式電子錠を設置。

防音材やカード式電子錠は、利用者のセキュリティに配慮するために設置したものである。各APブースには、現在はHPCI接続用端末1台ずつ設置してある。この端末は、MacOSとWindowsを選べるようになっており、利用者が使い慣れた環境で作業できるように配慮した。HPCIネットワークのバックボーンであるSINET4との間は、1Gbps帯域保証の専用回線を用意した。この回線は、APブースのためだけに別途設置したものであり、APブース2室でバックボーン直結の大容量回線を占有できる。

原則として、APブース利用者は、HPCI利用課題として選定されたプロジェクトの構成

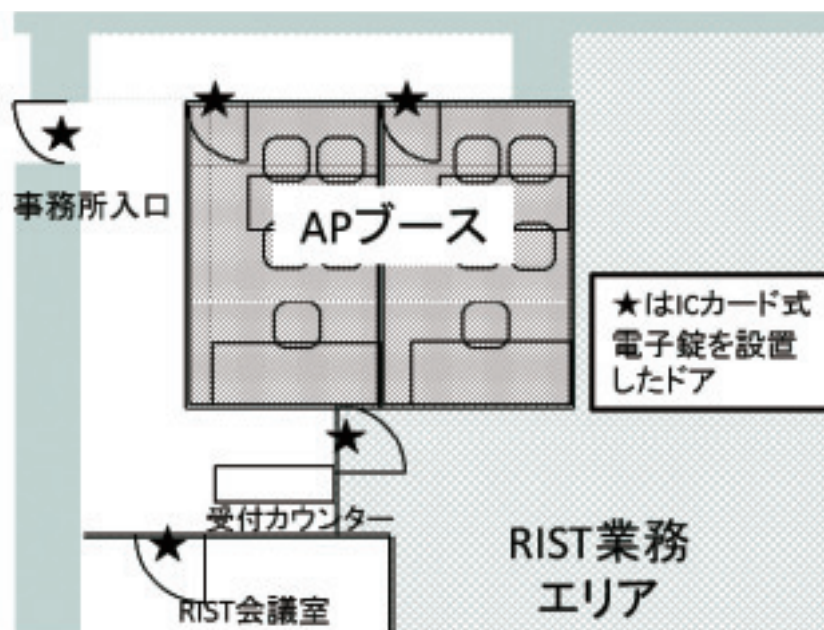


図2 アクセスポイント東京ブースレイアウト

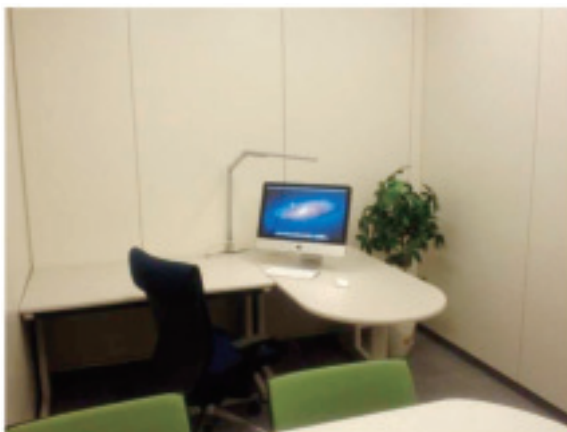


図3 アクセスポイント東京ブース風景

員とする。APブースの利用には事前登録が必要であるが、必要な書式、利用規約の内容、ブースの予約状況などは、アクセスポイント独自の情報を提供するために立ち上げたWebサイトにてダウンロードや確認ができる。このサイトにはブース予約のためのWebフォームや、相談窓口のための質問フォームなども用意してある。アクセスポイントのURLは、https://www.hpci-office.jp/guide/use.html#access_pointであり、アクセスポイント東京のURLは、<http://tokyo.rist.jp/ap-tokyo>である。

(2) 「技術相談窓口」と「コンシェルジュ的相談窓口」

アクセスポイント東京で行う利用支援としては、「技術相談窓口」と「コンシェルジュ的相談窓口」の2つに大別できる。図4に、利用支援業務の概念図を示す。「技術相談窓口」では、以下を想定している。

①利用相談

- ・利用可能なアプリ、ライブラリ、ツール等の問合せ
- ・シングルサインオン、データ転送等の方法
- ・コンパイル、実行等で問題が発生した時
- ・プログラムの移植で問題が発生した時

- ・実行性能情報の採取方法

②高度化支援

- ・性能分析支援
- ・並列化、高速化支援

アクセスポイントにおける支援は、情報提供や助言であり、利用者のアプリケーションコードやライブラリそのものに対する移植・チューニングの実作業は基本的には行わない。これは、HPCIにおける産業利用支援の基本的な考え方として「大規模高並列計算の産業界への普及促進の観点から、これらの支援業務はあくまでも産業界ユーザの人材育成に資するものとすべき」であり、実作業は利用者自らが行うべき、とされているからである。

一方、「コンシェルジュ的相談窓口」は、「技術相談窓口」がHPCI利用課題として選定された後の支援であるのに対し、HPCI利用課題として選定される前の対応である。図5にその概念図を示す。

コンシェルジュ窓口の対象は、これからHPCI、あるいはスパコンなどのHPC技術そのものを利用しようと考えている、あるいは興味を持っている将来の利用者であり、「よろず相談窓口」的な業務である。HPCI利用の有無にかかわらず、誰からでも質問・相談を受け付ける。内容的にも、

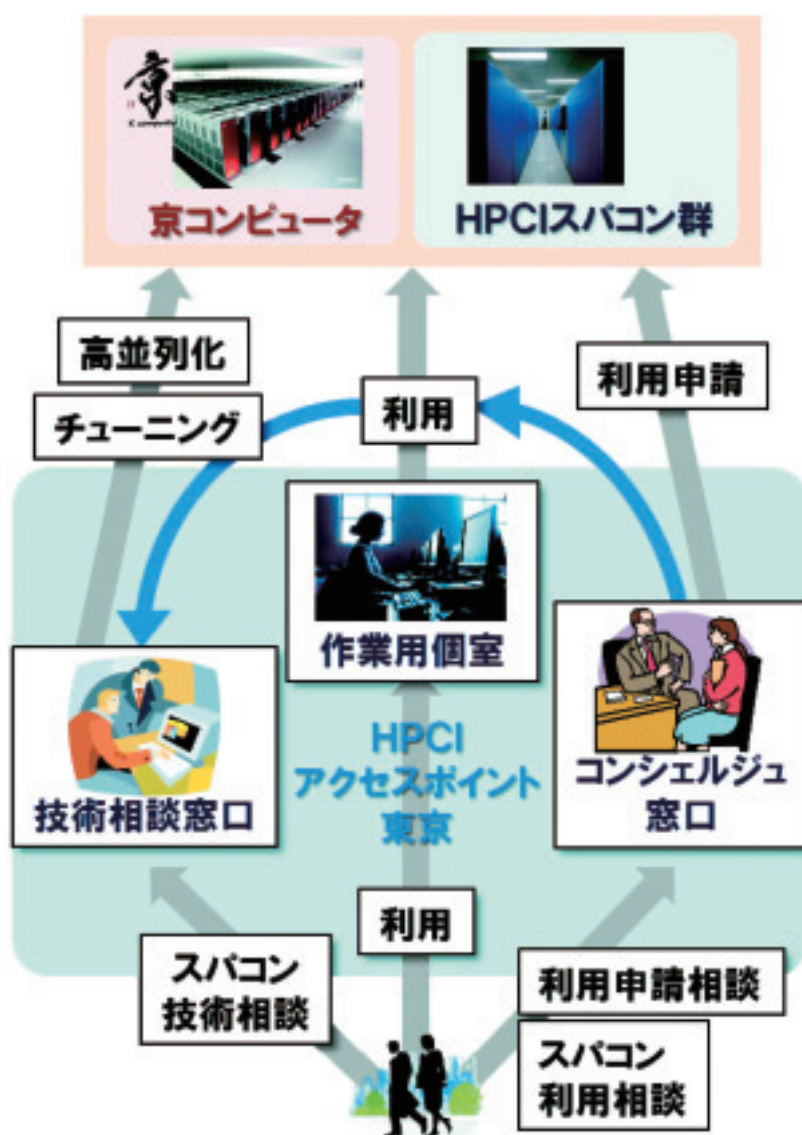


図4 アクセスポイント東京における利用支援業務の概念図

・「HPCI課題申請を検討しているが、その申請書の書き方がよくわからない」、
 ・「HPCIのどのスパコンを利用すればいいのかよくわからない」
 といったHPCI利用に関する質問はもちろん、
 ・「スパコンを使ってみたいが、どこから手を付ければよいのかわからない」、
 ・「スパコンを使うと、わが社にどのようなメリットがあるのか?」、さらには、
 ・「そもそも、スパコンって何?」
 といったようなさまざまな一般的な質問にも丁寧にお答えしていく。

むろん、コンシェルジュ担当相談員だけですべての質問や相談に対応できるわけではない。本来「コンシェルジュ」とは、利用者と直接対話をし、そのニーズや問題点を把握し、その内容やレベルに応じて、適切な機関・人への橋渡しをする役割である。例えば、登録機関、資源提供機関の担当部署を紹介することもあれば、さまざまところで行われている一般向けスパコン利用講習会を紹介することもできる。計算機資源についてもHPCIのみならず、場合によってはFOCUSスパコンや民間の計算機資源提供業者、ISVなどを

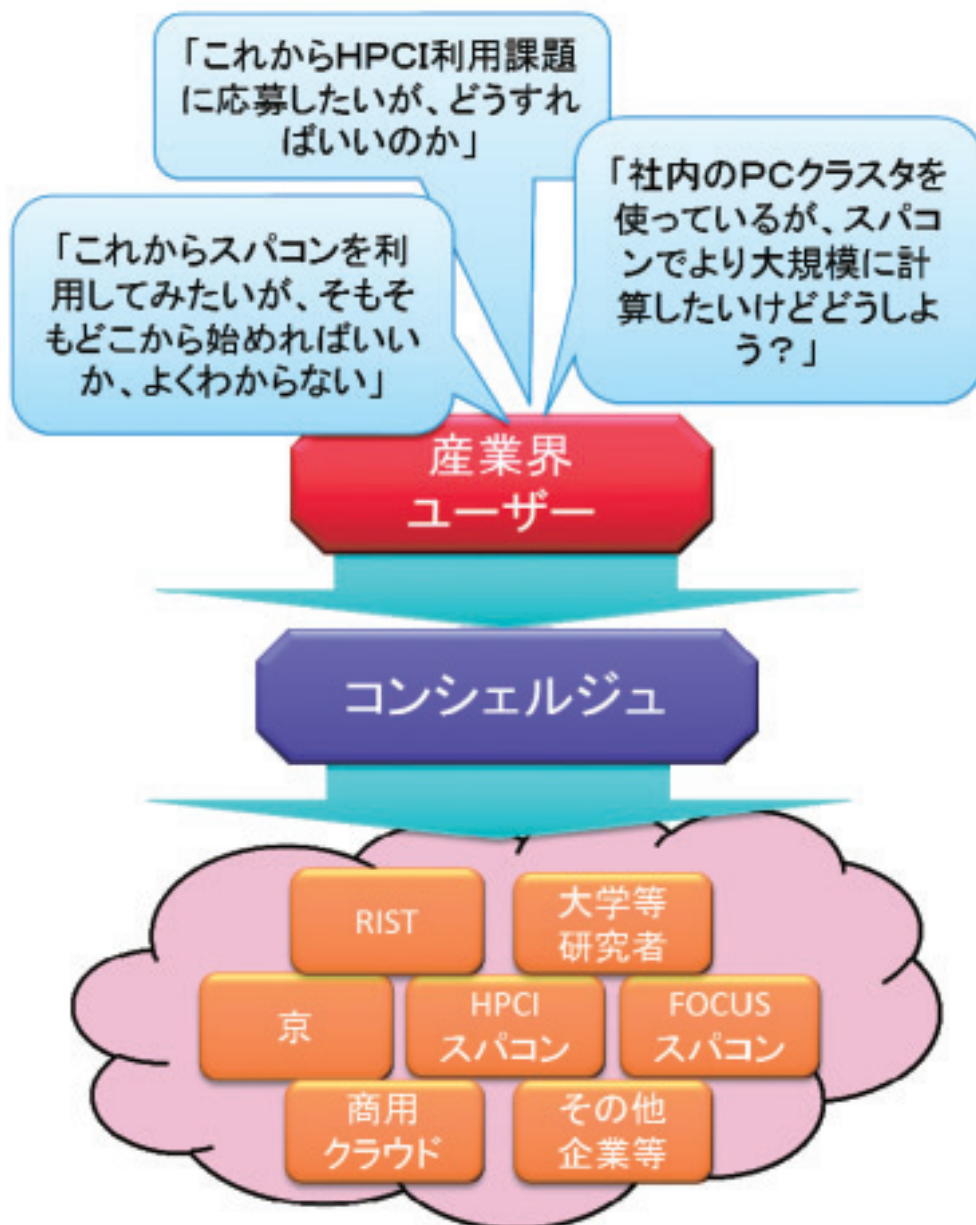


図5 コンシェルジュ窓口の概念図

紹介することもありうる。

アクセスポイントのメリットは、単に端末室がそこにあることではなく、相談員がそこにおいて、利用者が相談員と直接対話できることにある。このことで、利用者側の相談の意図や真の問題点を正しく把握することができ、よりきめ細かい支援を行うことができる。特に産業界におけるスパコン利用の裾野を広げるためには、このような窓口の存在と適切な運用が極めて重要な役割を果たすもの

と考えている。

(3) アクセスポイント利用の今後の課題

選定された産業利用課題の利用者へ、アクセスポイントの存在とその支援内容を周知し、積極的に活用してもらうよう働きかけることが必要である。また、京やHPCIの利用を検討中、あるいはためらっている利用者に対し、トライアル・ユースへの応募を呼びかけ、申請段階からコンシェルジュ窓口を通じ

で一貫した支援を行うことも重要である。さらに、「スパコン利用の裾野拡大」を念頭に、大企業のみならず、中小企業やベンチャー企業等へ積極的な情報展開を図る事が肝要だと考えており、潜在的利用者の開拓も積極的に行っていくつもりである。

5. 共用開始後の産業利用課題の状況

「京」のシステム運用を担う理化学研究所計算科学研究機構は、課題ごとに毎月の資源利用状況を記載したマンスリーレポートを作成し、各課題代表者に送付している。含まれる情報としては、

- ①課題で利用したノード時間積（月別と累計）、資源消費率（今期および通期の累計）、ジョブ投入数、利用ノード数（最大、最小、平均）、実行効率（最大、最小、平均）
- ②上記のユーザIDごとの情報
- ③月別、ユーザ別、ノード数別、実行時間別の情報をグラフ化したもの

などである。

共用開始後から2012年11月末までの2回分（2ヶ月分）の利用実績データに基づき課題の実施状況を分析した。利用開始状況は、ト

ライアル・ユースが利用開始3件、未利用が1件、実証利用は利用開始13件、未利用が4件、個別利用が利用開始2件、未利用が3件であった。利用を開始しているか否かの識別は、演算ノードで計算ジョブを投入し資源を利用した実績の有無で判断している。ログインノードでコンパイル・リンクあるいは入力データ作成などの実行準備をしている課題は、未利用の区分に入れられる。未利用の課題実施者にヒアリングして確認したところ、殆どが実行準備中であった。早期にジョブ投入に至るよう、現在ヘルプデスクを中心に支援を行っている。なお一般利用課題（条件付選定課題を含む）は、利用開始39件で未利用が12件、若手人材育成課題は、利用開始5件で未利用が3件であった。利用区別に円グラフで比較したものを図6に示す。

割り当て資源に対する消化率という観点では、2か月間の累積がトライアル・ユースで13.5%、実証利用が3.2%と未だ低い。一般利用の9.0%、若手人材育成の11.8%という数字も決して高い訳ではないが、産業利用課題の出足が良いとはいえない。個別にヒアリングを行い、課題の状況を良く把握し、必要

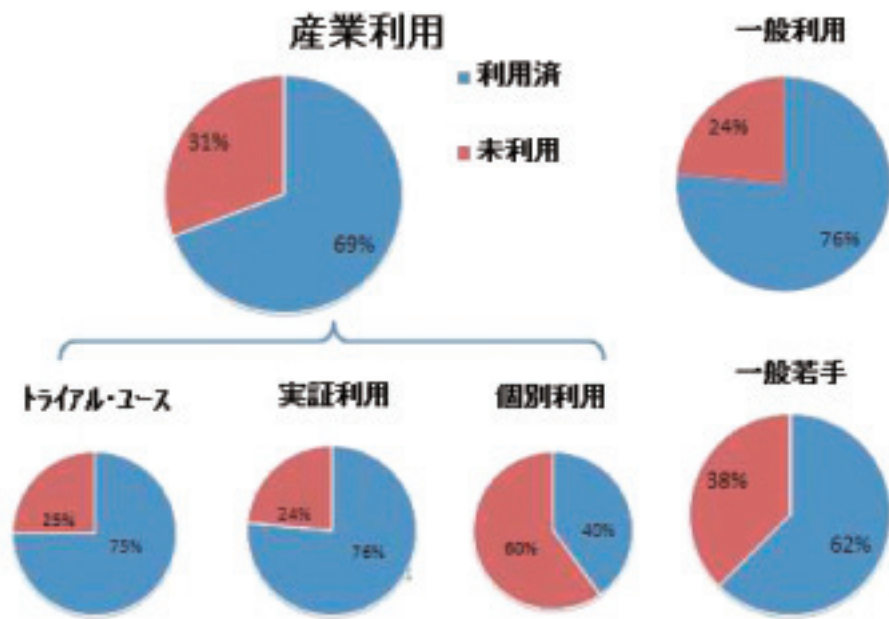


図6 「京」の利用区別の利用開始状況

な支援を行っていききたい。

このマンスリーレポートを見れば、資源利用の進捗が滞っている（計画資源量と比較して資源の消費率が低い）課題、計算の規模が課題申請書で計画した規模をいつまでも大幅に下回っている課題、実行効率が著しく低い課題を発見できる。該当する課題実施企業にヒアリングを行い、課題実施において困っている点が無いか、支援の必要性がないかを確認する。利用成果を早期かつ確実に創出するためには、利用者からの要請を待って支援するだけでなく、登録機関側から支援が必要と思われる課題を見つけて、積極的に手を差し伸べることがより重要である。

6. 産業利用拡大に向けた今後の取り組み

募集から選定、利用開始まで1ラウンドを終えたが、課題もあった。平成24年度の募集があったことを知らなかった、応募期間が短く稟議手続きが間に合わず応募を断念したという企業が少なくない。正式に登録機関としての組織が立ち上がり活動を開始できたのが4月に入ってからという事情もあったが、次回以降は、早期にアナウンスを行うことで十分な周知期間を設け、募集期間についても企業が社内手続きに時間を要することを考慮して設定したい。

産業利用に関わるある先生から、34件という課題応募数を見て、「全国の企業の数から見れば少なすぎる。随時受け付け中のトライアル・ユースにもっと応募があって良い。様子見の企業が多いのではないか。」とのご指摘をいただいた。今後、フロントランナーが「京」を活用し、利用成果を上げているのを見れば、それに続こうとする企業が一気に増加するのではないかと期待している。2013年3月に中間成果報告会を開催する準備を進めているが、早期に成果が見え始めている課題を発表して啓発し合い、ノウハウの共有や利用者間の交流の場となるようにしたい。

「京」を中核とするHPCIシステムの課題に応募し選定されれば利用が可能なこと、当財団が登録機関およびHPCI運用事務局として利用促進業務を推進していること、現在もトライアル・ユース課題だけは募集中であることなどを広く潜在的利用者に知っていただく必要がある。そのため、セミナーやシンポジウムを開催したり、講演を行ったり、産業利用に関わる展示会に出展するなど、広報・宣伝活動に今後一層注力していく。また、課題実施者が効率的に「京」の基本・応用スキルを習得し、短期間で本格利用に進めるよう、利用技術講習会にも力を入れる。「京」の利用者向けに利用環境やプログラミングの環境の習得を目的とした講習会を神戸と東京で既に4回開催した。また将来「京」の利用者になるかもしれない一般の方も受講可能としたチューニング技法や並列プログラミングに関する講習会を開催した。表2は、今年4月以降に開催したセミナーや展示会への出展、利用講習会の開催実績である。今後実施することが確定した案件についても表中に記載している。

7. おわりに

11月10日から16日まで米国ソルトレークシティで開催されたSC12(世界最大のスーパーコンピューティングに関する国際会議・展示会)で発表された性能ランキングTOP500リストにおいて、「京」は、米国オークリッジ国立研究所のタイタン、米国ローレンスリバモア国立研究所のセコイアに次ぐ、世界第3位となった。しかし、それはLINPACKという指標だけにに基づく順位であって、より総合的な性能を示す他の4種の指標では3種が1位、残り1種が2位であった。タイタンもセコイアも4種の指標では上位3位内に一つも入っておらず、「京」の実用的な総合性能は、依然として世界トップクラスを保持していることを示している。これだけ高い価値がある

セミナー・シンポジウム	開催日	会場
地域ICT推進協議会総会	2012/5/11	ホテルモントレ神戸
オープンCAEワークショップ2012	2012/6/8~9	国立オリンピック記念青少年総合センター
京コンピュータ・シンポジウム2012	2012/06/14~15	神戸大 統合研究拠点コンベンションホール
RIKEN AICS HPC Summer School 2012	2012/8/6~8/10	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
「京」共用開始式典	2012/9/21	神戸ポートピアホテル
HPC産業利用スクール「京」特別コース	2012/11/1	東大生産技術研究所
第24回産業応用協議会スパコンセミナー	2012/11/20	トスラブ市ヶ谷
オープンCAEシンポジウム2012	2012/12/14~15	岐阜ハートフルスクエア-G
展示会出展	開催日	会場
国際フロンティア産業メッセ	2012/9/6~9/7	神戸コンベンションセンター
SC12	2012/11/10~11/16	米国ソルトレークシティ コンベンションセンター
HPCS2013	2013/1/15~1/16	東京工業大学
国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	2013/1/30~2/1	東京ビッグサイト
SACSIS2013	2013/5/22~5/24	信州国際センター
講習会	開催日	会場
「京」利用者向け講習会 第1回	2012/9/27~9/28	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
「京」利用者向け講習会 第2回	2012/10/3~10/4	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
「京」利用者向け講習会 第3回	2012/10/10~10/11	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
チューニング技法編入門	2012/11/5	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
並列プログラミング入門 (MPI編)	2012/11/6	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
「京」利用者向け講習会 第4回	2012/11/26~11/27	トラスト・シティー・コンファレンス(東京)
チューニング技法編入門	2013/2/21	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)
並列プログラミング入門 (MPI編)	2013/2/22	理化学研究所計算科学研究機構(神戸)

表2 セミナー・展示会・講習会実績と予定

「京」は日本の財産であり、産官学にわたって広く利用され、成果が創出されなければならない。そのために、登録機関、HPCI運用事務局およびアクセスポイント東京を運営す

る業務において、徹底して利用者の視点に立ち、利用者の声に耳を傾け、ニーズを的確に把握し、それを迅速に日々の活動に反映していく所存である。